



伏見城攻図 慶長5年(1600)、家忠が戦死した伏見城の戦いの布陣を描いた図  
縦188cm×横157cmの大図

深溝松平家は、家忠没後、吉田(豊橋)→刈谷→福知山→島原と移封を重ね、それに伴って菩提寺である本光寺も移転しました。寛文9年(1669)、6代忠房の時に島原に入封し、以後明治維新まで島原藩主を務めました(1749～74の間のみ宇都宮に移封)。

長崎県島原市の本光寺は、島原移封に伴い建立された深溝松平家の菩提寺です。

深溝本光寺時代からの深溝松平家関連資料を所蔵し、「常盤歴史資料館」を設置して保管・公開しています。



本光寺(長崎県島原市)

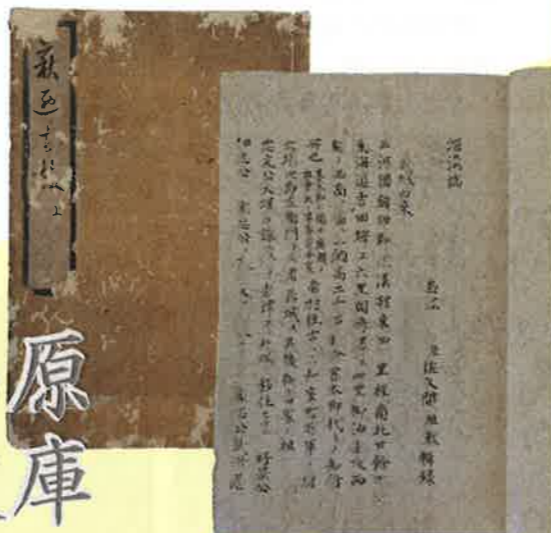
## SHJMABARA 島原



今川義元寺領安堵状 本光寺宛て



織田信長書状 三河守(徳川家康)宛て  
以上、本光寺(長崎県)所蔵資料



深溝誌(萩の古枝) 三河深溝村と本光寺について探究した書  
肥前島原松平文庫所蔵

## 肥前島原松平文庫

(島原図書館内)

旧島原藩主松平家が歴代にわたり収集・所蔵していた古典籍類を中核とする資料保存機関。これらの古典籍類は長崎県有形文化財に指定されています。

深溝松平家は、代々好学の家柄として知られ、島原藩初代松平忠房は、文学・歴史・兵法・絵図など、広く天下の貴重本を収集しました。歴代藩主も学問を好み、これらの遺風が継承されていきました。

## 駒澤大学禅文化歴史博物館 企画展



駒澤大学図書館所蔵  
貴重書公開

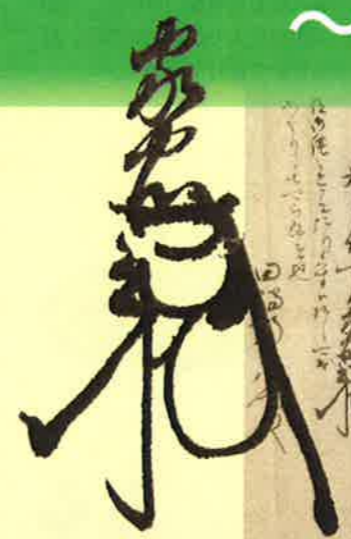
家忠日記 駒澤大学図書館所蔵  
天正十年(一五八二)六月条

## 家康を支えた一門

MATSUDAIRA IETADA

# 松平家忠とその時代

## ～『家忠日記』と本光寺～



松平家忠知行安堵状 本光寺(長崎県)所蔵  
(松平家忠花押)



松平家忠肖像 本光寺(愛知県)所蔵



深溝松平家所伝の槍 本光寺(愛知県)所蔵

日記から読み解くリアルな戦国  
徳川家康の一門・深溝松平家忠(一五五五～一六〇〇)が書き残した日記と、深溝松平氏の菩提寺・本光寺(愛知県幸田町・長崎県島原市)に伝来する関係資料から、戦国武将の実像に迫ります。

- 【主催】 駒澤大学禅文化歴史博物館
- 【共催】 駒澤大学禅ブランドンギ事業
- 【協力】 駒澤大学大学院久保田昌希ゼミ
- 【後援】 幸田町教育委員会  
島原市教育委員会  
世田谷区教育委員会
- 【特別出品協力】 本光寺(愛知県幸田町)  
本光寺(長崎県島原市)  
肥前島原松平文庫

令和元(2019)年

9月16日月～11月13日水

【開館時間】 10時～16時30分  
入館無料

第39回禅博セミナー(企画展関連講演)  
家康を支えた一門 松平家忠とその時代  
～『家忠日記』と本光寺～  
講師 駒澤大学文学部教授 久保田昌希(本企画展監修)  
日時 令和元年年10月11日(金)18時～19時半  
会場 駒澤大学中央講堂  
定員 150名(※申込不要・参加費不要)

開館カレンダー  
9月 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30  
10月 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31  
11月 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30  
休館日  
※休館日、開館時間等は変更になる場合があります

駒澤大学禅文化歴史博物館  
The Museum of Zen Culture and History, Komazawa University  
〒154-8525  
東京都世田谷区駒沢 1-23-1  
TEL (03)3418-9610  
FAX (03)3418-9611  
http://www.komazawa-u.ac.jp/taclities/museum/



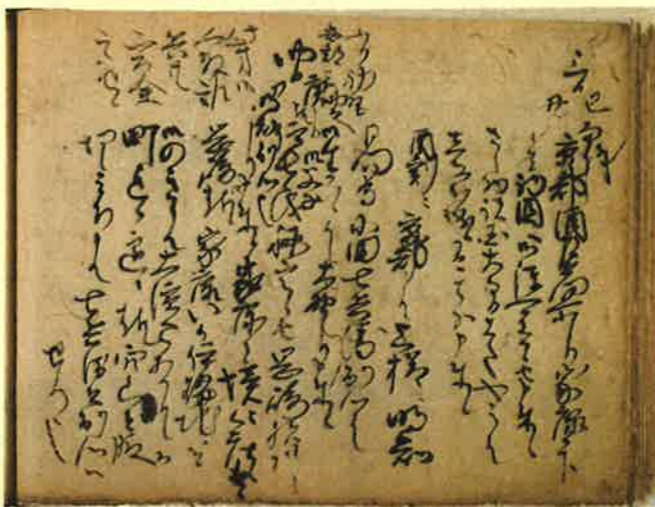
# 『家忠日記』に記された本能寺の変 ～天正10年(1582)6月3日・4日の日記～



家忠日記 全7冊 駒澤大学図書館所蔵

駒澤大学図書館所蔵の貴重書『家忠日記』は、徳川家康の一門・深溝松平家忠の自筆日記です。戦国武将の自筆日記としてたいへん希少で、家忠の日常生活や合戦での様子、信長・秀吉・家康の動向などが記され、戦国時代のリアルタイムの情報を知ることができます。

『家忠日記』の自筆原本とともに、深溝松平家の菩提寺である二つの本光寺（愛知県幸田町・長崎県島原市）に伝来する深溝松平家ゆかりの資料を同時に公開する初の企画展を開催致します。



天正10年(1582)6月3日・4日条(三巻) 駒澤大学図書館所蔵

## 一大事に情報混乱! 家康の安否は?

**【大意】**  
三日 己 雨降り。京都の酒井左衛門尉(忠次)より、家康が戻って来たら、西国へ御出陣があると伝えられた。旗指物(はたきさしもの)は大きいものはやめて、挽(小型の機)とすると伝えられた。  
四日 寅 信長親子(の死)については秘密とすることが、岡崎城や結川城から伝えられた。家康は塚にいたそうだ。(私は)岡崎へ行った。(家康は)伊賀・伊勢路を通過して逃れ、大浜(愛知県碧南市)に上陸したので、町まで迎えに行った。穴山(信君)は切腹した。途次で七兵衛(信澄)の謀反は風説だと知った。

信長は「上様」だけど、家康は呼び捨て?

どんな人が書いたの?



松平家忠肖像 本光寺(愛知県)所蔵

## 松平家忠プロフィール

徳川家康の一門・松平一族の出身で、三河国深溝の領主・深溝松平氏の四代目当主。  
生年：天文24年(1555) 月日は不明  
没年：慶長5年(1600)8月1日(現在の暦で9月8日)  
享年：46歳(数え年)  
出身地：三河国深溝郷(現愛知県額田郡幸田町)  
死没地：山城国伏見城(現京都府京都市伏見区)  
通称：又八(又八郎)、主殿助  
父：松平伊忠、母：鶴殿長持の娘、妻：水野忠分の次女  
尊敬する人：徳川家康・里村紹巴  
趣味：連歌、数寄(茶の湯)、鷹狩り、川狩り(川魚捕り)、日記をつけること?

松平家忠は、多くの合戦に参加し、また城普請に従事するなど、主君家康を支えて活躍しました。

『家忠日記』には、家康が三河一国の領主から、江戸城主になるまでの過程が記され、徳川氏の権力が成長していく様子をうかがうことができます。

家康の城に家康が江戸に移ると、深溝から忍(埼玉県行田市)に移封し、ついで上代(千葉県旭市)、小見川(千葉県香取市)へと移りました。

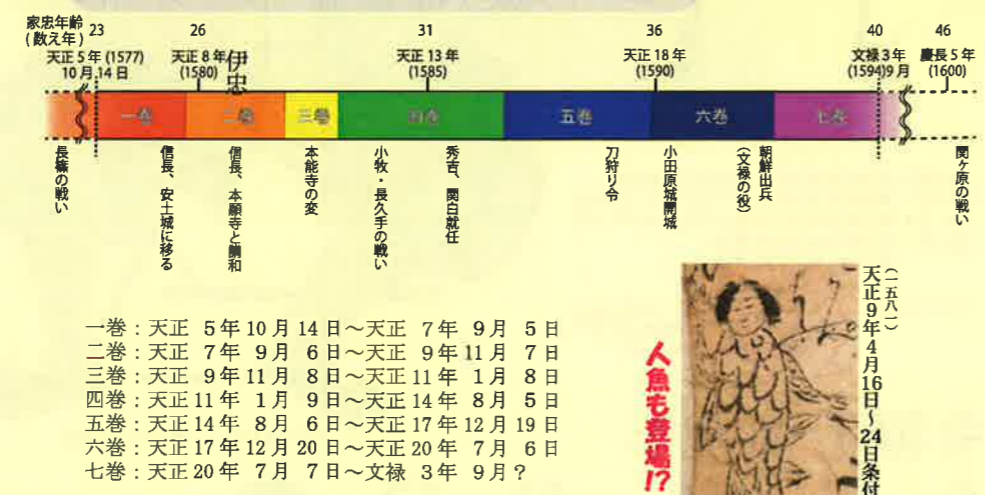
慶長5年(1600)年、関ヶ原の戦いの前哨戦となる伏見城の戦いで、石田三成方の攻撃により、籠城戦の末、壮絶な討ち死にを遂げています。

家忠が日記をいつから書き始め、いつ終わったのかは定かではありません。

連続して残っているのは天正5年(1577)10月14日から、文禄3年(1594)9月までの約17年間です。以後は断簡となっていて読み取るのは困難です。

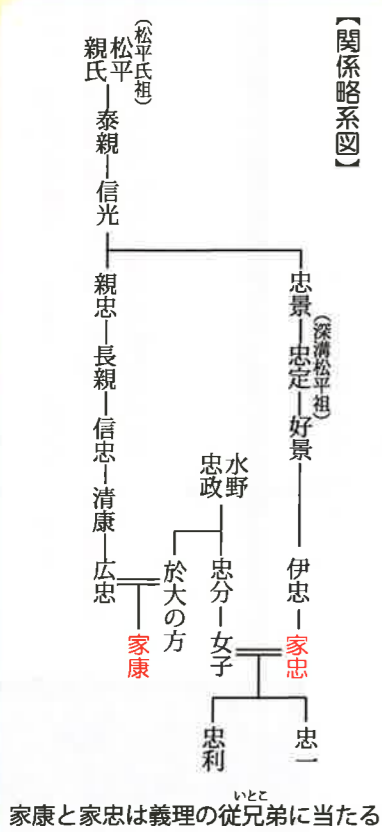
家忠は慶長5年(1600)に伏見城の戦いで没するまで日記を書き続けたとも考えられています。

いつ書かれたの?



人魚も登場!?

- 一巻：天正5年10月14日～天正7年9月5日
- 二巻：天正7年9月6日～天正9年11月7日
- 三巻：天正9年11月8日～天正11年1月8日
- 四巻：天正11年1月9日～天正14年8月5日
- 五巻：天正14年8月6日～天正17年12月19日
- 六巻：天正17年12月20日～天正20年7月6日
- 七巻：天正20年7月7日～文禄3年9月9日



愛知県幸田町の本光寺は、深溝松平家初代忠定によって、享禄元年(1528)に開創されたと伝えられます。以後、深溝松平家の菩提寺として、歴代当主の埋葬地となりました。

7代忠雄(1673～1736)の墓所からは、平成21年の発掘調査で、蒔絵製品・銀製香道具・刀剣・陶磁器・漆器・貨幣など大量の副葬品が出土しました(松平忠雄墓所出土品一括、幸田町指定文化財)。

近世大名の墓制を知る上で、国内でもたいへん重要な史跡であることから、墓所全域が「国史跡 島原藩主深溝松平家墓所」となっています。



深溝松平家墓所 右から初代忠定、2代好景、3代伊忠、4代家忠



本光寺(愛知県幸田町)

7代忠雄墓所から出土した慶長小判と慶長一分金



本光寺開山希声英音肖像(左)・二世華宗英香肖像(右)



松平家忠・忠利・忠一肖像 三幅対(幸田町指定文化財) 中央：家忠・右：忠利・左：忠一

以上、本光寺(愛知県)所蔵資料